



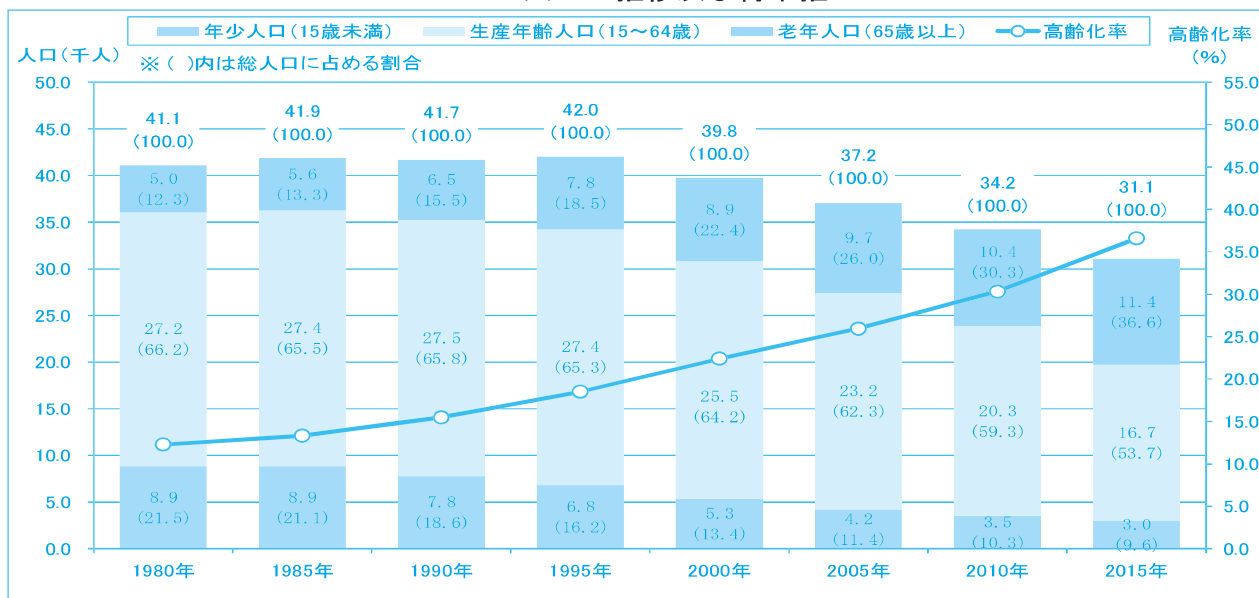
# 第3章 宇陀市の現状

## 1. 人口構造

### (1) 人口の推移

宇陀市の人口は、1995年の約42,000人をピークに減少が続き、2015年には約31,000人となりました。また、年齢3階層別にみると、老年人口(65歳以上)の占める割合が増大しており、2015年には約36.6%となっています。一方で、年少人口(15歳未満)の占める割合は縮小しており、2015年には約9.6%となっています。これからの推計値をみても人口数は減少し、年少人口、生産年齢人口の割合は減少、高齢者人口割合は増加していくものと予想されます。

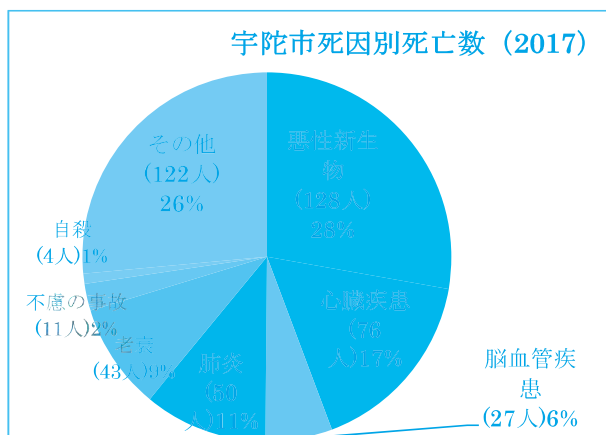
人口の推移及び将来推



2005年以前は合併前の4町村の人口の合計値

資料：国勢調査（各年）

## 2. 健康状況



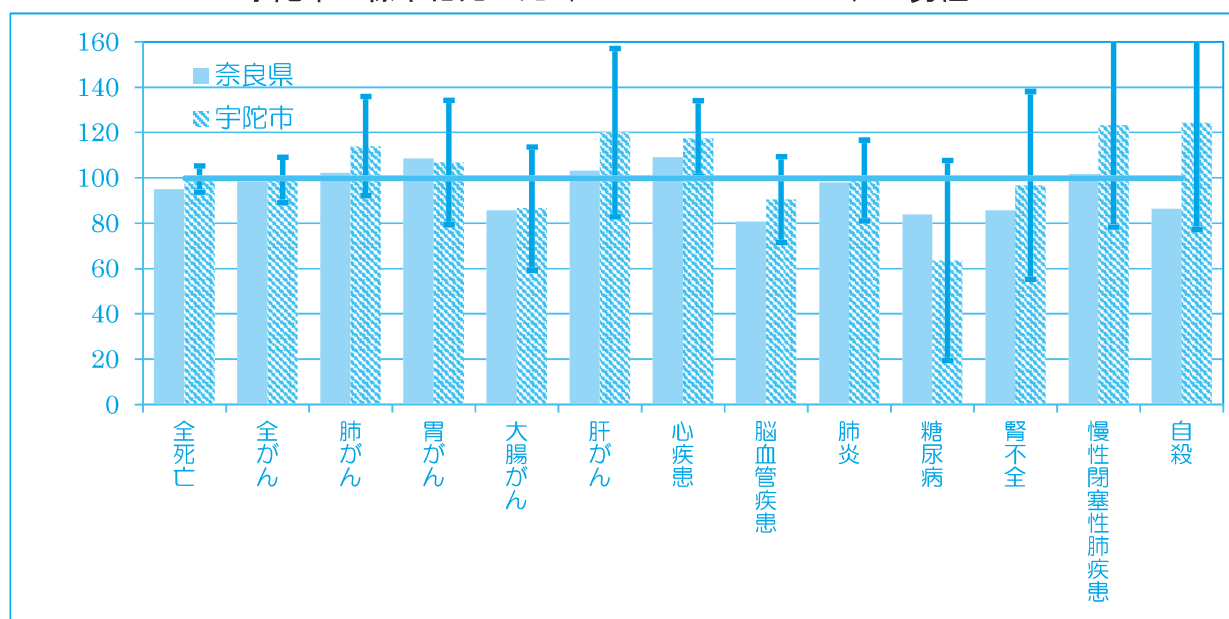
宇陀市の死因別死亡割合（2017年）

宇陀市における死因別死亡では、

- 1位 = がん
- 2位 = 心疾患
- 3位 = 肺炎
- 4位 = 老衰

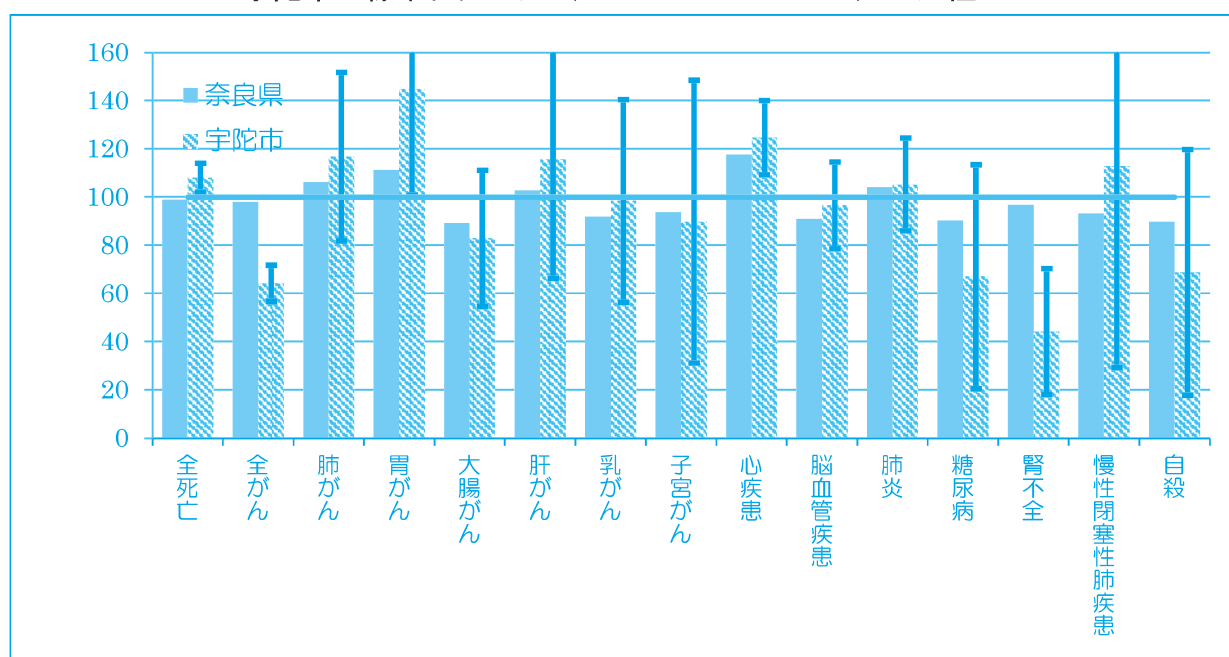
となっています。

宇陀市 標準化死亡比（2012～2016） 男性



宇陀市の男性の標準化死亡比は、肺がん、肝がん、心疾患、慢性閉塞性肺疾患、自殺が県平均より高いです。

宇陀市 標準化死亡比（2012～2016） 女性



宇陀市の女性の標準化死亡比は、肺がん、胃がん、肝がん、心疾患、肺炎、慢性閉塞性肺疾患が県平均より高いです。

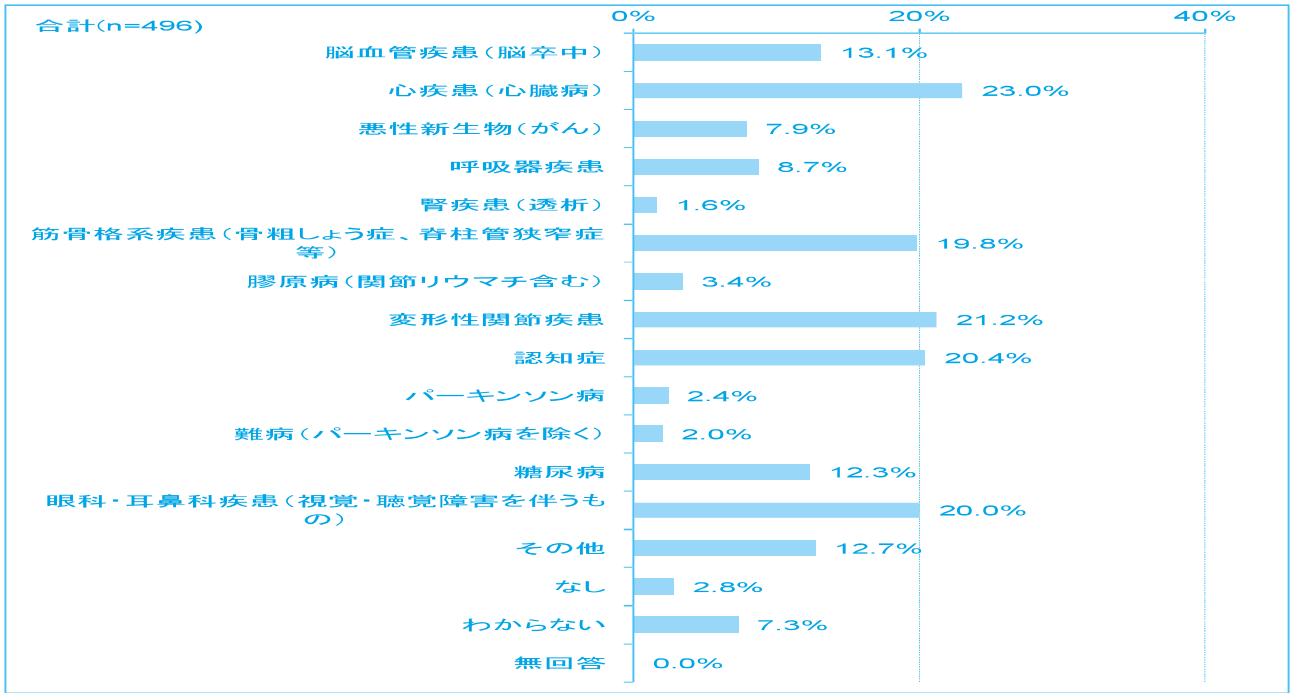
※標準化死亡比とは・・・

各市町村の年齢構成の違い（高齢者が多い、若年者が多い）を補正し、その疾患による死亡率を比較するための指標。このグラフでは、全国の平均を100とし、100以上だと全国に比べ死亡率が高いと判断される。棒グラフの中の矢印は「95%信頼区間」と呼ばれ、95%の確率での数値の揺れ幅を表している。

## 介護が必要となった原因（複数回答）

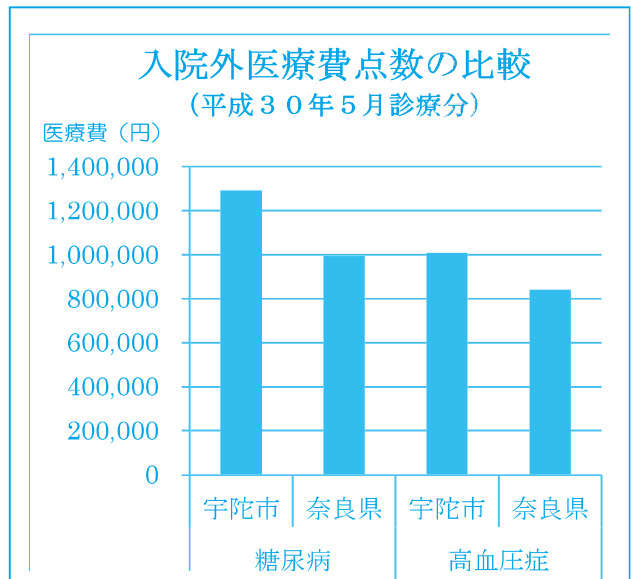
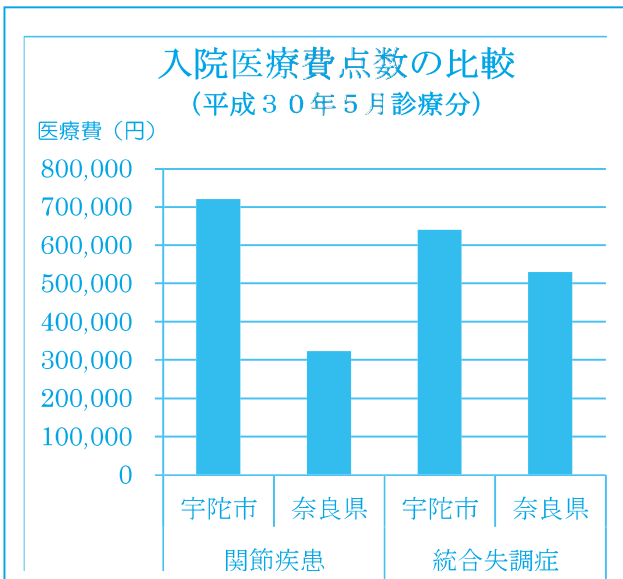
本人が抱えている傷病では、「心疾患」「変形性関節疾患」「認知症」の割合が高くなっています。  
 （2017年度「在宅介護実態調査」）

### ★本人が抱えている傷病（複数回答）



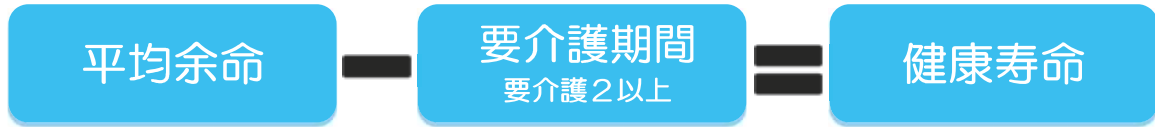
## 国民健康保険診療点数（県比較において高い疾患）

宇陀市国民健康保険の医療費分析では、入院では、関節疾患の割合が県平均に比べ高くなっています。  
 また、外来では、虚血性心疾患、脳血管疾患、腎不全を引き起こす基礎疾患としての糖尿病や、高血圧などの循環器系の疾患の割合が高くなっています。



### 3. 健康寿命

健康寿命とは『日常的に介護を必要とせず、自立した生活ができる生存期間』のことをいいます。奈良県では下記の式により健康寿命を算出しています。



#### 宇陀市の健康寿命（平均自立期間）「健康寿命の算出について」

奈良県健康福祉部 2019年1月資料より

		65歳 平均余命 (長いほど長寿) 年	65歳 平均要介護期間 (短いほどピンピンコロリ) 年	65歳 平均自立期間 (長いほど健康寿命) 年
男性	全国 (H28値)	19.55	1.66	17.89
	奈良県 (H28値)	20.05	1.69	18.36
	宇陀市 (H28値) (県内25位/39)	19.57 (県内25位/39)	1.92 (県内35位/39)	17.65 (県内26位/39)
女性	全国 (H28値)	24.38	3.46	20.92
	奈良県 (H28値)	24.68	3.64	21.04
	宇陀市 (H28値) (県内30位/39)	23.92 (県内30位/39)	3.90 (県内28位/39)	20.01 (県内30位/39)

宇陀市の平均余命は県内比較において長くはなく、介護期間は長い傾向にあります。

